

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000044		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム喜寿苑 (A)		
所在地	愛知県豊橋市前芝町字加藤381番地の2		
自己評価作成日	令和2年9月21日	評価結果市町村受理日	令和2年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z3/index.php?act=for_kouin&you_detail_022_kani=true&ligvosvcId=2392000044-
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
聞き取り調査日	令和2年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は純和風の外観と二つのユニットを結ぶ中庭園があり、一年を通して花や緑が色づき入居者の方々の目を楽しませてくれます。少し歩くと河川敷公園もあり、一級河川豊川を眼下に散歩するのに良いロケーションがあります。今年はコロナ感染拡大防止の観点から制約・制限を受けていますが、一部地域の方々との交流もあり、子供見守り隊として車での移動時には周辺の子供の姿を確認し、トラブルに巻き込まれていないか等、留意しています。入居の方々におかれましては、自分らしさを無くされぬよう会話・声掛けを行い、生活に関わる各種の選択と決定をしていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念(全ては利用者様の為に)のもと、全職員は入居者様の日々の生活を支えています。また、自施設の目標も毎年度掲げ、個別性を重視しその人らしさを守るよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年通り自治会や民生委員、小学や地域の方々と協力し運営推進会議や各種行事の参加、認知症カフェを考えていましたが、コロナ感染防止雄観点にて本年度は一部を除き交流が出来ていない状態。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談や、入居されている方への面会など、気軽に立ち寄れる環境を作っているもののコロナ感染防止雄観点にて本年度は一部を除き交流が出来ていない状態。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を開催し、活動報告を行っており、参加者の意見を吸い上げ、今後の運営に活かす機会としているもののコロナ感染防止の観点より中止が続いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種の書類の提出や申請の代行などを通し、担当者とのコミュニケーションを重ねるなど良い関係は保てていると思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様のやりたい事を抑止したり、職員の都合で行動を制限するような事がないよう職員間で話している。玄関の施錠は防犯の観点より家族様に説明をし行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で見直しあうことで虐待につながる兆候をつかむようにしている。また、職員のストレスが溜まらぬよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修・勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には理念や権利擁護、利用料や入退院等、入居者様の生活になぞらえて、説明しており、家族様には納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の中で生じた入居者様の意向は記録され、反映。プランに取り入れる事もある。面会時には、家族様の意向を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見や提案を聞くようにしている他、毎月開催の全体会議や責任者会議を通して聴き、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が向上心、キャリアアップにつながるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開かれる各種の研修・勉強会に参加して頂き、知識の向上と技術の研鑽に励める体制はあるが、コロナの関係で、数は少なくなっている。また、参加後は復命書を提出し、周知に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に赴き他事業所の方と交流し意見交換を行っている。事例を持ち帰り、話し合うこともあり、サービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、本人様と家族に面談を行い、生活・身体状況を把握。また、どのような生活を望まれるのかを意向という形で吸い上げている。また、入居後の家族様との関わりも説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、本人様と家族に面談を行い、生活・身体状況を把握。また、どのような事に困っているのか意向という形で吸い上げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様が困っている事に耳を傾け、出来る事は直ぐに実行に移すように取り組んでいる。困難なことについては、対応策として、案を出すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でその人らしさを大切に、共同生活の中で必要なことや助言などをおし、やりがいを育めるような関係を築いていけたらと行動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後の家族様との関わりを説明している他、面会時や毎月のお手紙の中でも本人様の状況を報告している等常に連携が取れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加や認知症カフェ参加など今年はコロナの関係で途切れている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの相性をあはくした、グループづくりや共同生活の支援をしている。また、孤立しないよう気配りを常に行うなど個別に対応もしている。みんなで生活を続けられるよう、家事の協業も考えて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終わっても相談などが気楽に行えるよう、環境や言動には注意している他、必要であれば助言や案など提示に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話の中から、本人様の感じている希望を把握し、定期的開催するモニタリングにて内容を話し合う。個々の気持ちを大切にしよう関わっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に、本人様と家族に面談を行い、生活・身体状況を把握。また、どのような生活を送ってきたのかを吸い上げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の様子、関わりの中で知れた情報を記録し職員間で情報を共有・把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族に直接お聞きし意向を確認したり、アセスメントを行い問題点を打ちだしながら計画書に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活を通して今までと異なる様子や疑問・成功例・失敗例などを記録に残し、改善につながるよう支援の方法を考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・ご家族様の意向を聞きながらその時々生まれるニーズに対応している。一人一人の生活リズムやADLをしっかりとらえ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議をとおして、各分野の方々との意見交換が行えるような体制はあるのだが、今年に入り、コロナの関係から一部を除き協働できてはいない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設主治医の往診として早期の病状へのアプローチを行っている他、家族様・入居者様の希望のかかりつけ医への受診は行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士は看護師と共に連携して入居者様の情報把握に努めている。また、看護師は情報を整理し、受診の必要性の有無を判断。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換を行い、指示を仰いでいる。入院中もこまめに職員が病院に赴き回復状態の把握や担当医や看護師と話し合いを行い、スムーズに退院がおこなえるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり終末期には本人様・主治医・家族・事業所職員と話し合いを行い事業所でできる事を書類と共に説明を行い、意向を確認しながら同意をいただいている。また、日ごとに請わる状態に対応するために定期的にモニタリングし、計画書も更新している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命の研修や勉強会を行い意識向上を図っている。緊急時マニュアルを作成して常に閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練等、災害の想定のもと、対応が出来るよう実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳やプライバシーが守られるよう努めている。勉強会や研修も計画されているが、コロナの関係で参加が出来ない状態が続いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様らしさを損なわぬよう個別に対応しており、個々の生活リズムにそった一日を送れるよう、言葉かけには、留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様らしさを損なわぬよう個別に対応しており、個々の生活リズムにそった一日を送れるよう、言葉かけには、留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選定は基本的に本人様に行って頂く以外で、一緒に行くなどして本人様の意向に沿った身だしなみになるよう留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の有する能力に応じて、また、得意不得意を考えて配膳や盛り付け、後片付けなどを職員と一緒にいき、やりがいや楽しみに繋げています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日記録に残し、状態把握に努めている他、気づき等は、主治医や栄養士、家族様に相談をしながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、口腔ケアを促し、個々で異なる必要な支援を行っています。また、定期的に歯科往診して頂くことで口腔内の清潔が保持できるようにする他、勉強会・質問回を行う事で知識と意識の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24Hシートにて個々の排尿感覚や排泄リズムを把握し、声掛けを行っている。日中は基本的にほぼ全員がトイレにて排泄をして頂けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を、毎日把握し、便秘が見られる方へは、水分摂取の強化や、乳製品の提供、希望者へは下剤の服用も主治医と相談しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は指定せず、個々の入浴したい時や体調に合わせた入浴が出来るよう、声掛けを行っている。支援者も可能な限り、同性職員にて対応。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や年齢を考慮する他、本人様の訴え時や、眠気やだるさが見られるような時には無理をせず、環境等に留意をはらい休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の薬状・注意事項等を個人ファイルに保管し、だれでも確認が取れるよう整備している他、服薬時には誤薬にならぬよう、しっかりと個人確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活を通じて、本人様のやりがいや楽しみにつながるよう、各家事の役割分担や余暇活動に取り組めるよう、個別の支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外出レク等の支援は、コロナの関係にて現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理出来る入居者の方には、所持して頂き、購入は職員が代行している(コロナの関係)が、本人様・ご家族様の意向にて、施設管理をしている方が多くを占める。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話はもちろん、入居者様からの電話も訴えがあった時は行っており、家族様との関係性継続を支援させて頂いている他、手紙のやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節感ある掲示物や置物等を職員と一緒に作成し不快にならぬ範囲で設置している他、生活音や匂いがこもらぬよう留意している。また、畳の空間やソファの設置など居心地良く過ごしていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中においても一人になりたい入居者様や趣味の合う仲間の方たちで、テーブルを囲むことが出来るよう支援している。また、会話の仲介や話題の提供等も行い、居心地よく過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の居室内には、家で今まで使用してきた家具を可能な限り搬入して頂き、居心地良く生活が出来るように配慮している他、環境整備として季節に応じて必要物品の搬入・購入をご家族様と本人様と話し合い行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、家庭を意識した設備となっており、物の配置も分かりやすい。危険につながる個所は職員間で話し合い、環境を改善すべく対応している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000044		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム喜寿苑 (B)		
所在地	愛知県豊橋市前芝町字加藤381番地の2		
自己評価作成日	令和2年9月21日	評価結果市町村受理日	令和2年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392000044-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和2年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は純和風の外観と二つのユニットを結ぶ中庭園があり、一年を通して花や緑が色づき入居者の方々の目を楽しませてくれます。少し歩くと河川敷公園もあり、一級河川豊川を眼下に散歩するのに良いロケーションがあります。今年はコロナ感染拡大防止の観点から制約・制限を受けていますが、一部地域の方々との交流もあり、子供見守り隊として車での移動時には周辺の子供の姿を確認し、トラブルに巻き込まれていないか等、留意しています。入居の方々におかれましては、自分らしさを無くされぬよう会話・声掛けを行い、生活に関わる各種の選択と決定をしていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念(全ては利用者様の為に)のもと、全職員は入居者様の日々の生活を支えています。また、自施設の目標も毎年度掲げ、個別性を重視しその人らしさを守るよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年通り自治会や民生委員、小学や地域の方々と協力し運営推進会議や各種行事の参加、認知症カフェを考えていましたが、コロナ感染防止雄観点にて本年度は一部を除き交流が出来ていない状態。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談や、入居されている方への面会など、気軽に立ち寄れる環境を作っているもののコロナ感染防止雄観点にて本年度は一部を除き交流が出来ていない状態。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を開催し、活動報告を行っており、参加者の意見を吸い上げ、今後の運営に活かす機会としているもののコロナ感染防止の観点より中止が続いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種の書類の提出や申請の代行などを通し、担当者とのコミュニケーションを重ねるなど良い関係は保てていると思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様のやりたい事を抑止したり、職員の都合で行動を制限するような事がないよう職員間で話している。玄関の施錠は防犯の観点より家族様に説明をし行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で見直しあうことで虐待につながる兆候をつかむようにしている。また、職員のストレスが溜まらぬよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修・勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には理念や権利擁護、利用料や入退院等、入居者様の生活になぞらえて、説明しており、家族様には納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の中で生じた入居者様の意向は記録され、反映。プランに取り入れる事もある。面会時には、家族様の意向を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見や提案を聞くようにしている他、毎月開催の全体会議や責任者会議を通して聴き、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が向上心、キャリアアップにつながるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開かれる各種の研修・勉強会に参加して頂き、知識の向上と技術の研鑽に励める体制はあるが、コロナの関係で、数は少なくなっている。また、参加後は復命書を提出し、周知に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に赴き他事業所の方と交流し意見交換を行っている。事例を持ち帰り、話し合うこともあり、サービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、本人様と家族に面談を行い、生活・身体状況を把握。また、どのような生活を望まれるのかを意向という形で吸い上げている。また、入居後の家族様との関わりも説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、本人様と家族に面談を行い、生活・身体状況を把握。また、どのような事に困っているのか意向という形で吸い上げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様が困っている事に耳を傾け、出来る事は直ぐに実行に移すように取り組んでいる。困難なことについては、対応策として、案を出すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でその人らしさを大切に、共同生活の中で必要なことや助言などをおし、やりがいを育めるような関係を築いていけたらと行動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後の家族様との関わりを説明している他、面会時や毎月のお手紙の中でも本人様の状況を報告している等常に連携が取れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加や認知症カフェ参加など今年はコロナの関係で途切れている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの相性をあくした、グループづくりや共同生活の支援をしている。また、孤立しないよう気配りを常に行うなど個別に対応もしている。みんなで生活を続けられるよう、家事の協業も考えて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終わっても相談などが気楽に行えるよう、環境や言動には注意している他、必要であれば助言や案など提示に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話の中から、本人様の感じている希望を把握し、定期的開催するモニタリングにて内容を話し合う。個々の気持ちを大切にしよう関わっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に、本人様と家族に面談を行い、生活・身体状況を把握。また、どのような生活を送ってきたのかを吸い上げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の様子、関わりの中で知れた情報を記録し職員間で情報を共有・把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族に直接お聞きし意向を確認したり、アセスメントを行い問題点を打ちだしながら計画書に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活を通して今までと異なる様子や疑問・成功例・失敗例などを記録に残し、改善につながるよう支援の方法を考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・ご家族様の意向を聞きながらその時々生まれるニーズに対応している。一人一人の生活リズムやADLをしっかりとらえ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議をととして、各分野の方々との意見交換が行えるような体制はあるのだが、今年に入り、コロナの関係から一部を除き協働できてはいない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設主治医の往診として早期の病状へのアプローチを行っている他、家族様・入居者様の希望のかかりつけ医への受診は行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士は看護師と共に連携して入居者様の情報把握に努めている。また、看護師は情報を整理し、受診の必要性の有無を判断。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換を行い、指示を仰いでいる。入院中もこまめに職員が病院に赴き回復状態の把握や担当医や看護師と話し合いを行い、スムーズに退院がおこなえるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり終末期には本人様・主治医・家族・事業所職員と話し合いを行い事業所のできる事を書類と共に説明を行い、意向を確認しながら同意をいただいている。また、日ごとに請わる状態に対応するために定期的にモニタリングし、計画書も更新している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命の研修や勉強会を行い意識向上を図っている。緊急時マニュアルを作成して常に閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練等、災害の想定のもと、対応が出来るよう実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳やプライバシーが守られるよう努めている。勉強会や研修も計画されているが、コロナの関係で参加が出来ない状態が続いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様らしさを損なわぬよう個別に対応しており、個々の生活リズムにそった一日を送れるよう、言葉かけには、留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様らしさを損なわぬよう個別に対応しており、個々の生活リズムにそった一日を送れるよう、言葉かけには、留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選定は基本的に本人様に行って頂く以外で、一緒に行くなどして本人様の意向に沿った身だしなみになるよう留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の有する能力に応じて、また、得意不得意を考慮して配膳や盛り付け、後片付けなどを職員と一緒にいき、やりがいや楽しみに繋げています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日記録に残し、状態把握に努めている他、気づき等は、主治医や栄養士、家族様に相談をしながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、口腔ケアを促し、個々で異なる必要な支援を行っています。また、定期的に歯科往診して頂くことで口腔内の清潔が保持できるようにする他、勉強会・質問回を行う事で知識と意識の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24Hシートにて個々の排尿感覚や排泄リズムを把握し、声掛けを行っている。日中は基本的にほぼ全員がトイレにて排泄をして頂けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を、毎日把握し、便秘が見られる方へは、水分摂取の強化や、乳製品の提供、希望者へは下剤の服用も主治医と相談しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は指定せず、個々の入浴したい時や体調に合わせた入浴が出来るよう、声掛けを行っている。支援者も可能な限り、同性職員にて対応。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や年齢を考慮する他、本人様の訴え時や、眠気やだるさが見られるような時には無理をせず、環境等に留意をはらい休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の薬状・注意事項等を個人ファイルに保管し、だれでも確認が取れるよう整備している他、服薬時には誤薬にならぬよう、しっかりと個人確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活を通じて、本人様のやりがいや楽しみにつながるよう、各家事の役割分担や余暇活動に取り組めるよう、個別の支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外出レク等の支援は、コロナの関係にて現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理出来る入居者の方には、所持して頂き、購入は職員が代行している(コロナの関係)が、本人様・ご家族様の意向にて、施設管理をしている方が多くを占める。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話はもちろん、入居者様からの電話も訴えがあった時は行っており、家族様との関係性継続を支援させて頂いている他、手紙のやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節感ある掲示物や置物等を職員と一緒に作成し不快にならぬ範囲で設置している他、生活音や匂いがこもらぬよう留意している。また、畳の空間やソファの設置など居心地良く過ごしていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中においても一人になりたい入居者様や趣味の合う仲間の方たちで、テーブルを囲むことが出来るよう支援している。また、会話の仲介や話題の提供等も行い、居心地よく過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の居室内には、家で今まで使用してきた家具を可能な限り搬入して頂き、居心地良く生活が出来るように配慮している他、環境整備として季節に応じて必要物品の搬入・購入をご家族様と本人様と話し合い行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、家庭を意識した設備となっており、物の配置も分かりやすい。危険につながる個所は職員間で話し合い、環境を改善すべく対応している。		